



報道各位

2022年12月15日

「FACE 展 2023」開催について

このたびSOMPO美術館では、「FACE 展 2023」を2023年2月18日(土)から3月12日(日)まで開催いたします。

当館を運営する(公財)SOMPO美術財団が2012年度に創設したFACEは、今回で11回目を迎え、新進作家の動向を反映する美術作品の公募コンクールとして定着しております。

「年齢・所属を問わず、真に力がある作品」を公募したところ、全国各地から、幅広い年齢層の1,064名の新進作家たちからご応募をいただきました。作家たちの思いが込められた応募作品の審査は長い時間を要しました。四次の「入選審査」とさらに三次の「賞審査」を経て、国際的に通用する可能性を秘めた入選作品81点(うち受賞作品9点)を決定いたしました。「FACE 展 2023」ではこれら入選作品を展示します。さらに、本展にてグランプリと優秀賞を受賞された4名の作家には、過去3年の受賞者12名からなるグループ展「絵画のゆくえ」(2025年1月開催予定)にも出品していただきます。

不確かな社会情勢の中、創作活動には困難を伴いますが、昨年同様に今回の応募作品には、時代の感覚を捉えた輝く作品が数多くありました。油彩、アクリル、水彩、岩絵具、版画、ミクストメディアなど技法やモチーフは多岐にわたりますが、見る者の心に潤いと感動をもたらしてくれることは共通しています。

会期中、観覧者投票による「オーディエンス賞」の選出を行います。魂を揺さぶる1点を探し、楽しみながらご観覧ください。

展覧会名： FACE 展 2023

会 期： 2023年2月18日(土)～3月12日(日)

休 館 日： 月曜日

開館時間： 午前10時～午後6時(最終入館は午後5時30分まで)

観 覧 料： 700円(高校生以下無料) ※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳を提示のご本人とその
介助者1名は無料。被爆者健康手帳を提示の方はご本人のみ無料。

主 催： SOMPO美術館、読売新聞社

協 賛： SOMPOホールディングス

特別協力： 損保ジャパン

後 援： 新宿区

審査員 (敬称略、順不同)

野口玲一 (三菱一号館美術館上席学芸員)、藪前知子 (東京都美術館学芸員)、大島徹也 (多摩美術大学准教授)、森谷佳永 (神奈川県民ホールギャラリー学芸員)、梅本武文 (SOMPO美術館館長)

受賞者

応募作品 1,064 点からグランプリ 1 点、優秀賞 3 点、読売新聞社賞 1 点、審査員特別賞 4 点を選出しました。

グランプリ 賞金 300 万円



吉田桃子 《Still milky_tune #4》2022 年 アクリル・ポリエステル布 112×106cm

本件に関するお問い合わせ先

FACE 展 2023 広報事務局(ウインダム内) 〒103-0014 東京都中央区日本橋蠣殻町 1-28-9 ヤマナシビル 4 階

TEL : 03-6661-9447 FAX : 03-3664-3833 e-mail : sompo-m-pr@windam.co.jp



グランプリ受賞作品コンセプト

音楽を聴く時の高揚感と頭に浮かぶ映像を起点に制作している。

それは特定の音楽を聴いた時に空想する映像的イメージで、記憶と現実の風景が混ざり合う映像を舞台に、自分自身や周囲の親しい人々からインスピレーションを得て生まれたキャラクターが出現する断片的な映画のシーンのようなものである。

そのインスピレーションをダイレクトに絵画として描写するのではなく、敢えてそこにいくつかのステップを介在させる。

制作のプロセスは各シーンの舞台装置となるマケットや、マネキンを加工した人形を作る事から始まる。

マケットや人形を動画で撮影し、その映像の1カットを絵に描き起こし、必要に応じて再撮影を繰り返す。

マケット、映像、平面の間を何度も行き来する過程でイメージは再構築され、最終的に半透明の布に投影されたかのように現れる絵画は、元より頭の中にあったイメージとは距離があり、想定を超えた表現となっている。

その様なプロセスで制作された絵画を展示空間にいくつも配することで、作者が意図しなかった視点を更に与え、元の映像イメージをなぞった「音楽を聴いて描いただけの絵」とは異なるアプローチへ発展する。

プロセスを経ることで音楽を聴く際に感じる高揚感を客観視し、普遍化させた情感を作品として提示したい。

その高揚感を鑑賞者と共有すると共に、新しい感興を呼び起こすような展示を目標としている。

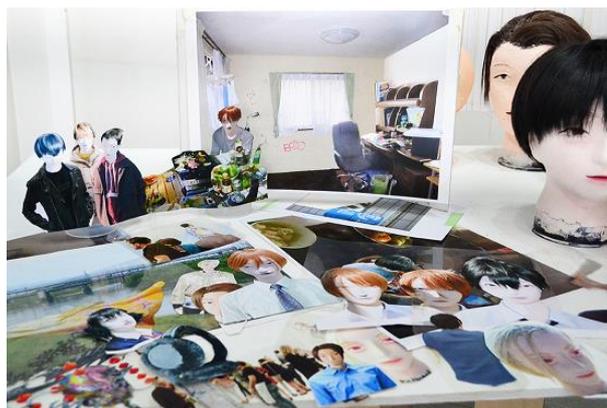
新たな試みとして絵画に登場する人物へより一層の焦点を当て、個人的な感傷が取り除かれた、自分と他人と、あるいは作品と鑑賞者を繋ぐようなキャラクターを存在させることが出来ないかと模索している。

その標石として「現代の若者の姿を描く」というテーマを更に設定し、作品の中で予期しない変化が生じることを期待する。

吉田桃子



制作過程資料 1



制作過程資料 2

< 参考記事 >

KYOTO ART LOUNGE <https://kyotoartlounge.jp/video/v03.html>

ARTISTS' FAIR KYOTO <https://artists-fair.kyoto/2020/artists/yoshida-momoko/>

美術手帖 <https://bijutsutecho.com/exhibitions/10276>

本件に関するお問い合わせ先

FACE 展 2023 広報事務局(ウインダム内) 〒103-0014 東京都中央区日本橋蠣殻町 1-28-9 ヤマナシビル 4 階

TEL : 03-6661-9447 FAX : 03-3664-3833 e-mail : sompo-m-pr@windam.co.jp



優秀賞 賞金各 50 万円



植田陽貴
《whispering》
2022 年
油彩・キャンパス
194×162 cm



ヨシミツコウイチ
《顕現(仮)》
2022 年
アクリル・クラフト紙・
パネル
130.3×194cm



中嶋弘樹
《リビングルーム》
2022 年
岩絵具・アクリル・箔・絹・和紙・OHP フィルム・キャンパス
162×162cm

読売新聞社賞 賞金 30 万円



橋口元
《リズム》
2022 年
水彩・アクリル・鉛筆・キャンパス
162×130.3cm

本件に関するお問い合わせ先

FACE 展 2023 広報事務局(ウインダム内) 〒103-0014 東京都中央区日本橋蠣殻町 1-28-9 ヤマナシビル 4 階

TEL : 03-6661-9447 FAX : 03-3664-3833 e-mail : sompo-m-pr@windam.co.jp



審査員特別賞 賞金各 10 万円

(野口玲一審査員)



霧生まどか
《13年目の顔》
2022年
リトグラフ
194×162cm

(藪前知子審査員)



柳澤貴彦
《bonfire》
2022年
油彩・キャンバス
194×162cm

(大島徹也審査員)



宮内柚
《Work 5-2》
2022年
シルクスクリーン・
キャンバス
130.3×162.1cm

(森谷佳永審査員)



うえだあやみ
《視線の指先》
2022年
油彩・キャンバス
162×130.3cm

ほか入選者 (72名、50音順)

芦田なつみ、安藤充、池田汐雪、石原陸郎、伊藤瑞生、岩本かずえ、宇都宮朱里、遠藤仁美、黄地香の子、荻原賢樹、フロリアン・ガデン、樺山カナヤ真理、唐木みゆ、川本実果、木村美有、久木田大地、小谷里奈、後藤まどか、小林あずさ、齋藤美卯、斉藤里香、桜井旭、首藤雪月、末松由華利、すずきしほ、関帆乃加、芹澤美咲、高橋ヨシ、タシロサトミ、立川瑞季、田中梢、田中正、谷内春子、玉木泰行、戸田麻子、長尾圭、中川未貴、中小路萌美、中野真由、ナカバヤシアリサ、滑川道広、西濃俊史、野片恵理子、野田晋央、能登真理亜、長谷川ヒロキ、樋口愛、氷見こずえ、Hyoji、平野史恵、平松絵美、廣門愛由、福田良亮、藤本恭子、彭家楽、前川奈緒美、真柴毅、松田豊美、宮澤賢三、桃山三、もりかわさく、森下マスミ、柳沼亜樹、薬師神トモミ、山口彩紀、山本駿平、山谷菜月、吉川智章、林銘君、ケビン・リー、六無、和田咲良

本件に関するお問い合わせ先

FACE 展 2023 広報事務局(ウインダム内) 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-28-9 ヤマナシビル 4 階

TEL : 03-6661-9447 FAX : 03-3664-3833 e-mail : sompo-m-pr@windam.co.jp